

O B 会報

第九号

横浜国立大学
ワンダーフォーゲル部
O B 会 発行
1968. 7. 15.

総会にて

O B 会新役員任命

昭和四十二年度 O B 会総会 本人の意志表示ありし場合は
は四十二年十一月横浜市内 Y 入会について事務局に一任す
M C A 会議室にて開催され、ること決定した。(新入会
左記事項を決定の上無事終了 者十五名)

致しました。以下報告致しま 2. 四十二年度活動

す。(議長 宮崎、密島)

1. 新 O B 加入の件

適格者の内、会加入の意志 行事につきそれぞれ報告があ
表示のあつた人は満場一致で った。

加入を承認、意志表示不明の 3. 四十二年度各委員会報告

人は四十二年三月迄に意志表 (省略) 山小屋委員会をは

示があれば入会を認めること じめ遭難対策等の各委員会及
とした。不適格者(現役部費 び現役顧問等より報告があり
未納者)については、部費納 ました。山小屋については郡
入次第適格者とみなし、更に 司より逐次報告が会報に記載

されており、又その他各委員
会の報告は細部にわたります
ので省略させていただきます。

4. 四十二年度会計報告

次頁のとおり報告があり、
承認された。

5. 四十三年度予算案

次頁の通り承認された。

尚、組織が徐々に充実して

きましたので O B の装備とし
て、テント一張(三ノ四人用)

ラジウス一個を購入すること

にしました。又毎月行なわれ

る月例 W には一回千円(夏合

宿は五千円)の補助を出すこ

とになりました。ふるつて御

参加下さい。(参加しないと

ソンこくヨノ)

6. 人事

任期満了に伴い、旧役員、

事務局員を解任し、次の通り

各役員、事務局員を任命致し
ました。

会長 松本正雄

顧問 嘉納秀明・井上肇

もくじ

総会にて O B 会新役
員任命 1

Y W V ・ O B 会の進
むべき道 井田貞司 3

第二回夏合宿 4

「特集」

月例ワンダリング

その一 援助金 4

その二 アルバム 4

その三 月例報告 4

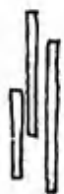
その四 参加者表
彰 5

山小屋建設に
御協力を!! 郡司直樹 6

十周年記念 W 7

結婚おめでとう 8

広告コーナー 8



42年度OB会会計報告

収入の部		支出の部	
OB会費(注1)	65,000	通信費	21,340
家族会員会費	100	OB会報発行費	8,300
収入利息	373	名簿印刷代	3,666
未収入金(注2)	133,000	会議費	
前年度繰越金	21,083	(会場使用料他)	6,140
		印鑑他文具購入	600
		追出コンパ	
		(4年生)記念品	1,050
		その他	500
		10周年記念返払金	5,580
		翌年度繰越金	39,380
		繰越未収入金	133,000
計	219,556	計	219,556

(注1)

40年度分	6,000
41 "	39,000
42 "	19,000
43 "	1,000
計	65,000

(注2)

1 期	10,000
2 "	10,000
3 "	30,000
4 "	17,000
5 "	44,000
6 "	22,000
計	133,000

43年度OB会予算

収入の部			
前期繰越金	39,380	現役対策費	1,000
未収入金徴収	133,000	OB会報発行費	10,000
会費収入 (43年度分)	100,000	通信費	30,000
計	272,380	名簿印刷費	5,000
		会議費	5,000
		感光紙費	1,000
支出の部		特別活動費	65,960
10周年事業費	44,420	予備費	30,000
事務局活動費	30,000	計	272,380
各専門委経費	10,000		
ワンダリング経費	30,000		
装備費	10,000		

山小屋建設委員会委員長
郡司直樹

十周年行事委員長
米屋勝利

OB会報編集委員長
密島英二

部史編さん委員長
井上肇

関西支部長
渡辺亨英

事務局長
井田貞二

会計
跡部一博

尚、遭難対策委員長は適任者不在につき、決定は事務局に一任することになりました。(御希望の方は至急事務局迄意志表示をお願いします)

事務局員 米屋(十周年行事終了迄)、井上、白井、江崎、井田、跡部、郡司、簗浦、亀井、

密島、岡村、佐々木
ご覧になつてお気付きの通り、OB会役員から一期二期生はできるだけご遠慮申し上げます、大いに若い頭脳を抜テキするよう致しました。

尚、本役員障の在任期間は極力短くし、できるだけ早く、

五ノ六期以降の方々に引継ぐ予定にしております。

総会終了後、近くに場所をもうけ、食事をしながら雑談致しました。皆の近況報告、昔のはなし、今後の予定等、とても楽しい夕べでした。

(文中敬称略 四期跡部)

Y W V・O B 会の

進むべき道

新事務局長 井 田 貞 司 (三期)

O B 会の雑用係となつてか、雑用の合間に気のついたことをここに申し述べて挨拶といたします。

ワンゲル創立以来十年余が過ぎ、様々なタイプのワンダラーが巣立ち、あるものはO B 会の中核として残り、またあるものはワンゲルから遠去かつて行きました。O B 会の諸先輩の努力のかいあつて会

りません。

事務局では、そのために月例ワンダリング、夏合宿、その他親睦会などを行なつてきました。今後、一層の拡充を計るつもりであります。しかし、今一つの盛り上りに不足して、特に若いO B の参加が得られず、所期の目的を達成していません。

O B 会は種々の欠陥をもつています。O B にとつて山野で考える時代は過ぎ去つたのかもしれないのかもつけられる力なぞもうないのかもしれない。しかし、外部から眺めているだけでは事態は好転しません。O B 会はわれわれワンダラー一人一人と同じ

性質なので、体質を変えらるるためには、まず参加することによつて自分自身の欠点としての認識から再出発しようではありませんか。

事務局では

① O B 会を新しい仲間作りの場としよう。

② O B もワンダラーである以上、まずワンダラーとしての実績を示そう。

③ ワンダラー同志のつながりを持続させよう。

の三点を四十三年度活動の基本にして、曲り角にきたO B 会の発展に微力を尽くす所存です。多忙な毎日毎日の余暇にこそ、ワンゲル精神の復活が必要とされる時はあります。

O B 諸氏のご協力をお願いいたします。



第 2 回 夏 合 宿

我々横浜国大同窓のワンダラーの長年の夢であつた山小屋も今秋には竣工のはこびとなり、OB会もますます発展しています。この発展の中で関東で行なわれている月例Wの集成として、又東西OB間の交流の場として、左記の通り第二回夏合宿を開催いたしますので、全国津々浦々のOB会員はこぞつてご参加下さるようお願い申し上げます。

記

一、期日 八月十七(金)〜二十日(月)

二、場所 長野県笹ヶ峯牧場(小屋のできる杉

野沢はまだ合宿には無理)

三、形態 ベースキャンプ方式

四、コース

A 十七日朝田口着、笹ヶ峯牧場に設営、小屋周辺散策。十八日妙高登山、頂上にてB隊と合流。

B 十八日朝関山着、燕温泉を経て妙高登山。A隊と頂上にて合流後、キャンプ場へ下山。

C 十九日朝直接キャンプ場へ。

全員にて笹ヶ峯周辺散策。正午テント撤収後一部解散。残留部隊妙高登山、小屋泊り。二十日下山。解散。

(六期 密島)

S 特集 S 月例ワンダリング

※その一

月例ワンダリング

リングにおいて行ないましよう。

援助金

※その二

アルバム作り

十一月の総会で今年度の予算が決まりました。そして会費は有効に会員に還元すべきであるということで、合宿、月例ワンダリング、総会、その他の行事になるべく多くの補助をすることになりました。月例ワンダリングについては一回千円の援助金が出ます。これでみんなの菓子代にしよ

うといのです。またOB会も月例ワンダリング用に、ラジウス、コッヘルの装備を持つことになりました。

皆さん、是非月例ワンダリングにご参加下さい。お互いに疎遠になりつつある現在、お互いの認識は、まずワンダ

月例ワンダリング報告

◎第二十二回 十一月二十六日 大霧山

日 大霧山

皆さん、是非月例ワンダリングにご参加下さい。お互いに疎遠になりつつある現在、お互いの認識は、まずワンダ

上、谷合、時田 奥武蔵のはずれ、眼下に秩父盆地をながめてきました。

◎第二十三回 十二月九日・二十八日 守屋山

十日 大室山(十周年記念) L井上、佐木、平沼、畑中

L井上、嘉納、吉野、塚原、今年の現役新部員は雨男、

宮崎紘、斉藤彦、井田、井上、雨女ぞろいとみえて途中から

跡部、郡司、谷上、牧原、亀雨

井、羽島、菅谷、密島、白神、◎第二十八回 五月二十六日

八島、下村、岡村、佐々木、大野山

中島、原隆 L跡部、吉野、郡司、密島、

◎第二十四回 一月二十七日 古荘

・二十八日 瑞樹山

L跡部、井上、

知る人ぞ知る。

◎第二十五回 二月二十五日

鎌倉裏山

L密島、宮崎紘、諸節

ヤブコギをしたり梅を見た

り、雪も残つてたけど春でし

た。

◎第二十六回 三月二十四日

L井上、吉野、宮崎紘、跡

部

新OB歓迎とは名ばかり、

マトンを腹いっぱい食べまし

た。

最多参加者についても表彰し

記念品を贈呈することになり

ました。これは第零回の栗駒

山にまでさかのぼつて行なわ

れます。今までの表彰者は次

のとおりです。近日中に記念

品をお渡しいたします。

◎五回賞(十四名)

第五回W 吉野(2)

第七回W 嘉納(1)

第八回W 井上(3)、郡司

(4)

第十回W 谷上(4)

第十一回W 谷(4)、織田

(4)

第十二回W 宮崎紘(2)、

岩村(2)、跡部(4)

第十九回W 諸節(3)

第二十回W 時田(5)

第二十二回W 塚原(2)

第二十三回W 密島(6)

◎十回賞(六名)

第十三回W 井上

第十七回W 吉野

第十九回W 嘉納

第二十一回W 宮崎紘

第二十四回W 跡部

第二十八回W 郡司

◎十五回賞(一名)

第二十四回W 井上

◎企画賞

第三回W 塚原(2)

第四回W 跡部(4)

第六回W 谷上(4)

第八回W(宮崎紘(2)

第二十回W 密島(6)

第二十三回W 井上(3)

◎昭和四十一年度最多賞

五回 嘉納(1)、吉野(2)

郡司(4)

◎昭和四十二年度最多賞

七回 宮崎紘(2)、井上(

3)

さあみなさん、どんどん月

例ワンダリングに参加しまし

よう。自分がリーダーの時は

大勢さそいましょう!!。

(五期 井上)

月例W参加者表彰

もつともつと月例ワンダリ

ングをさかんにしよう、月

例ワンダリング参加者にいろ

いろな賞を与えることになり

ました。

まず参加者は五回参加する

ごとに記念品が贈呈されます。

リーダーについては、十人以

上集めたら企画賞がもらえま

す。

また年間(十月一日から九

月三十日)月例ワンダリング

山小屋建設に御協力を!!

山小屋建設委員 郡 司 直 樹 (四期)

この会報がOB会員の皆様方のお手元に到着する前に、すでに送付しました「山小屋建設趣意書」にて、山小屋建設事業の全体的な状況は理解いただけていると思えますが、昨年末に土地を賃貸借契約しました件から順に、その詳細をご報告し、併せて今後の予定等を記します。

笹ヶ峰地区で我々が山小屋建設に最適の場所と結論を下した土地の所有者岡田悟氏(杉野沢・民宿五八木荘経営)に会い、四二年の暮もおし迫った十二月二四日に現役の松川(九期)と私の二人で雪の降りしきる妙高々原に赴き岡田氏所有の造林小屋の付近(〇坪(雑木林)を年額四〇〇〇円にて

又付近一〇〇〇坪は蒸嘗等の目的に無料使用できる条件で土地賃貸借契約を結んで参りました。この時はあいにく妙高国際スキー場を経営していた泰生観光(株)が倒産して、後がまの国土計画(株)がスキー場再開準備をしている最中でスキー場が閉鎖されていたために、例年なら運行しているはずのバスも杉野沢でストップしてしまい、道路も除雪されないので残念ながら肝腎の土地を実際に見て来ることができませんでした。しかしスキー場も今年二月より再開された由ですし、国土計画が妙高山の斜面を利用して大スキー場を開発予定しているの今後冬でも交通の便は非常

に突になるものと思われまます。四三年になってOB側は事務局会で山小屋の資金面の具體的な検討に入り、杉野沢の建設業者和信建設(早大の山小屋を工事した会社)の話などを資料にして討議した結果、資金面から小屋の内装工事が後回しになるような事態が生じて、できるだけ収容人員の多い設計(五十名程度収容)とする。早大の小屋の例(三四坪×六万円)をみて資金目標総額の不足が懸念されるので、OB会員数を考慮した上で資金総額を一四〇万円に上げるとの結論に達し、OB側の募金目標金額は九〇万円になったのであります。

山小屋建設委員会は山小屋建設趣意書・建築設計図の作成にかかり、多大の日時を費しました。四月にやつと印刷の運びとなり、OB会事務局の承認を得て趣意書等の書類をOB会員諸兄諸姉に配布致し、正式に山小屋建設資金の募金を開始しました。五月の連休には、吉野(二期)、跡部(四期)の兩名が現地調査に笹ヶ峰へ行き、現地の詳細並びに今夏着工するのに必要な準備事項等を調査し、又建設業者とも山小屋建設工事の見積り作成の件で接衝してきました。その結果、これから工事請負契約をすれば今夏着工して今秋に竣工する日程に就けることができる見通しを得まして、現在久野(六期)、芦川(八期)が共同で建設資材見積りを作成中でありまます。

今後は、OB、現役合同山小屋建設委員会で山小屋運営のための使用細則を作成し、会員の皆様方が手軽に自分達の山小屋を利用できて、OB・現役が広く深く親睦の情を増し、共に談笑し会えるよう

な山小屋にしたいと考えまして、運営の問題に取り組みることになっていきます。

次に山小屋建設の日程は次の如くに予定しています。

六月 建設業者と工事請負契約

約

七月 建設着工

十月 竣工並びに落成式

尚、八月中旬には別稿に記載の如く、建設工事状況の視察を兼ねてOB会第二回目の

夏合宿が笹ヶ峰で予定されていますので、皆様方たくさんのご参集を期待しています。

右ご報告致しました如く、私達の山小屋を建てようという運動が開始されてから皆様方のご協力によりまして、やっと四年目で建設工事に取りかかる段階に迄到着する事ができました。この一大事業の成否は、残るは資金が集められるか否かにかかっています。OB会員の皆様今一度お願い

致します。どうぞ山小屋建設にご協力を!!

山小屋建設資金募金状況

(六月三十日現在)

○寄付金総額 二八万円

○貯金利子 八六五〇円

合計 二八八六五〇円

完納者(敬称略)

(一期) 嘉納秀明、田上栄

一、松本正雄、望

月元雄

(二期) 藤林徹、渡辺一良、

岩村美智子、米屋

勝利、齊藤彦司、

宮崎紘

(三期) 井田貞司、井上肇、

江崎伴雄、白井信

行、渡辺享英

(四期) 跡部一博、谷上俊

三、郡司直樹、谷

昭仁、横山幸子、

齊藤伸一

(五期) 須賀栄子

(六期) 密島英二

(七期) 岡村和子、佐々木

和江

頭金納入者

(一期) 桑原忠雄、河野哲

(二期) 吉野大次郎、塚原

伸一郎、岩上克尚

(三期) 諸節紀代子

(四期) 永田明彦

十周年記念

ワンダリング

横浜国大にワンゲルが生まれ

れて早十年たちました。

そこで十二月の月例ワンダ

リングは、このワンゲル創立

十周年記念ワンダリングをか

ねて、現役の追出しコンパ

に引き続き、現役と合同で行

なわれました。

「追出しコンパ」とは食

べてさわいで寝るものだと思

いこんでいたら、しごかれつ

ばなし。ヒィヒィいいながら

目的地へ。おいしかったのは、

ジンギスカンとすきやき。こ

れがなかったら、すくわれな

いようなワンダリングでした。

と、あるお嬢さんが言ってい

ました。

大室山の頂上では、十周年

記念の道標が建てられ、OB、

現役ともども、十周年を祝い

ました。



中白井信行

久美子

ご本人黙して語らず。ただ

ニコニコしているのみ

宇岡田光豊

美奈子(旧姓岡崎)

ワンゲルカップル・ナンバ

ーフォー

三月二十七日

中原 隆子

敏司(旧姓二宮)

すてきなおむこさんでしたとの報告あり。

四月十二日

中竹内章二

節子(旧姓服部)

二人で協力し、明るく、心豊かな家庭を築くと言っています。

四月二十一日

中松本弘道

真理子(旧姓繪原)

またもや、ワンゲルカップル。なんとすばらしいクラブでしょう。

五月三日

中斉藤貞夫

京子(旧姓山中)

ヒルトンホテルにて。

新婦は油化のおとなり、三菱モンサント勤務だったとか。研究に向向した彼氏がその生涯における、最大の発見をした、とのこと

した。

五月六日

またこのほかにも、結婚された方のおいでのようにですが、未確認情報のため割愛いたしました。多くの情報を、ご提供ください。

広告コーナー

☆スカイライン売ります

四十二年九月、および四十年一月発売の二〇〇〇GT

じゃなくて、VOL10、No1

No2です。部数若干

ご希望の方は代金(一冊二百円)を添えて申し込みを。

送料当方負担

四期 跡部

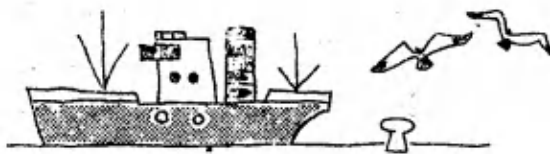
☆広告募集

花嫁・花婿探しの広告など

いかがですか。

生活の中の意見や紀行文などもお寄せ下さい。

編集部



編集後記

七十年安保を論争の焦点とした参議院選の審判も下った今日、東大、早大をはじめ、全国的に大学当局と学生のあるり方が問題化されています。学窓を巣立ち時久しくなるとこれらのことが全く他人ごとと思われたりしてきます。「問題意識をもて」。そう、われわれサークルでよく使った言葉です。最近OB会にもこの言葉が通用するようになってきたのでは、とふと感じることがあります。

OB会報第九号

編集責任者 密島英二

発行責任者 松本正雄

印刷

横浜市鶴見区生麦三ノ五
ノ二四
板橋 膳 写 堂
電話(五〇一)一〇一六